

平成29年度

印西市民アカデミーだより

第14号

第14回 印西市民アカデミー〈10月7日〉

講座 27・28 〈人権・本佐倉城跡散策〉

講座名：『人権について学ぶ』

～千葉県人権センター・本佐倉城跡～

講師：千葉県人権センター 常務理事 鎌田 行平氏

会場：千葉県人権センター 10:00～15:30

アカデミー生全員が酒々井町にある千葉県人権センターを訪問するのは初めてです。講師の鎌田氏は、長年人権問題・差別問題に取り組んできたその道のプロフェッショナルで、どんな講義が行われるのか楽しみにしていました。

世界の差別問題は「民族差別」であるのに、日本は「民族内差別」です。中世当時は宗教的職人として差別されていなかった人々が、なぜ、いつ頃から差別されるようになったのかを中世戦国時代の千葉



氏一族の本佐倉城(酒々井町)を中心とした城下町を例にとり、部落の起源等について丁寧に分かりやすい講義をしてくださいました。

〈講義抜粋〉『酒々井町の部落の起源は、本佐倉城大手門の門衛として始まり、当時「長吏」「清め」などと呼ばれていた部落の先祖の役割は「社会を清める」こと。具体的には、城内に犯罪者を取り締まるなどの警備の仕事、軍馬や農耕馬の死体から革をつくり、鎧などの武具を生産する仕事、芸能民の取り締まり、竹細工、薬の製造等々。千葉氏とともに誕生し、栄え、城下を支えてきました。特に、皮革産業が戦国武将にとって極めて重要な軍需産業であったことから部落の役割の重要性が伺えます。その後、千葉氏は、豊臣秀吉の小田原攻めに際し、小田原城主北条

氏に加勢して、全軍参戦しましたが敗戦によって滅亡し、以降は佐倉を支配した徳川方の配下に移りました。明治以降、身分制の廃止に伴って従来の特権産業を失い、貧困と差別の歴史が始まりました。解決には、なぜそうってしまったのかを知ることが大事です』

午後は、東日本大震災の被災地である福島県相馬市、南相馬市、宮城県亘理町、仙台市、気仙沼市、岩手県陸前高田市、大船渡市はすべて中世千葉氏の所領地であったことが分かり、千葉氏ゆかりの地から応援しようという「ちばの絆」運動が始まった紹介ビデオを視聴。その後、本佐倉城跡の散策に出発。残念ながら早朝まで続いた大雨のため城跡には近づけず、城跡全体が眺められる場所から説明を聞くこととなりました。当時は、城の下まで海で、船を使って古河(茨城県)まで移動していたことなど歴史ロマンを感じる話に熱心に聞き入っていました。



広大な敷地にビックリ！

第15回の予定

■期日：10月21日(土) 10:00～15:30

◇講座29 〈福祉〉 10:00～12:00

講座名：『福祉体験～車いす・アイマスク・高齢者疑似～』

講師：印西市ボランティアセンター 西畑 繭子氏

会場：総合福祉センター

◇講座30 〈環境〉 13:30～15:30

講座名：『ふるさと体験～印西の里山体験～』

講師：自然研究家 河邊 久男氏

会場：総合福祉センター